

島根県邑智郡川本町／島根中央高等学校

主に担当するコーディネート機能

高校

地域

協働体制

## 生徒と地域の伴走者

### 異業種からのジョブチェンジ

#好奇心 #新たな挑戦

前職は、株式会社ユニクロで働いていました。年齢や国籍、学歴や性別などのフィルターを通して判断せず、個としてフェアに評価される社風に惹かれ、入社しました。地元とは真逆の環境で、自分がどこまで挑戦できるのかを試したかったということも理由の1つです。会社に入ってから総合職として、中四国や九州エリアで店舗の店長を経験しました。刺激的な毎日でしたが、掲げた目標を達成しやりきったこと、そして過程よりも結果を評価する結果主義という考えに疑問を抱くようになり、30歳を転機に退職することにしました。

その後は一度実家へ帰り、今後について考えていたところ「島根中央高校第1号のコーディネーターになってみませんか」と役場職員の方からお誘いを受けました。学生時代は教育と心理に興味があり教員免許を取得していたこと、新しい取り組みにワクワクしたこと、自分の母校であったことなど様々なきっかけが重なり、やってみようと思えました。



吉村 朋子

島根県立島根中央高等学校  
高校魅力化コーディネーター

#### プロフィール

島根県川本町出身。神戸親和女子大学卒業後、株式会社ユニクロにて5店舗の店長を経験。2012年にUターン。高校魅力化コーディネーターとして、島根中央高校に着任。現在は主に探究学習と生徒募集を担当。二児の母として、仕事と家庭の両立に奮闘中。

### 環境変化と気づき

#Uターン #子育て

生徒たちと触れ合うことで成長を追えるのはもちろん、先生や行政の方々とゼロから何かを作り上げることがやりがいです。初年度は生徒募集活動のみの担当でしたが、9年目になり、SNSの運営や探究授業の設計から伴走まで、幅広い業務に携わらせていただくようになりました。前職のように目まぐるしい変化を体感することは少ないですが、心身ともに安心した環境で働けており、Uターンしてよかったと感じています。

また期間中に出産と子育てを経験したことで、新たな気づきもありました。それは、親目線から考える教育です。子どもが町内で進学する際に、こんな学校や地域、学びがあったらいいなと思うようになりました。子育て中のため、放課後の時間や休日に先生や生徒と関わる時間が取れないといった制限等も多く、モヤモヤすることもあります。そんな自分だからこそ出来ることもある気がしています。現在は、与えられた時間の中でいかに効率的に取り組めるかを考えながら、仕事と家庭の両立に奮闘しています。



探究学習で伴走している班の、発表用のスライド作成についてアドバイス。

### 町の特徴を活かした教育の実現

高校のみならず、小中学校が取り組んでいることを知り、川本町だからこそできる教育を考えていきたいです。例えば、小中学生と高校生が交わるような授業を作る、子どもたち1人1人に合った学びを提供する等です。子どもの数が少ないことや町に各校種が1校ずつしかない点を活かすことで、たくさんの可能性が広がるのではないかと考えています。これからも学校や生徒、地域にとっていい変化が生まれるような活動を続けていきたいです。

島根県邑智郡邑南町／矢上高等学校

主に担当するコーディネート機能

高校

地域

協働体制

## 社会変革を陰から支える

### 教育の持つ可能性を信じて

#教員志望 #学校だからできること

私は高校時代に苦手科目の公民を楽しく面白く教えてくださった先生のようにになりたいと思い、大学では経済学部で公民の教員免許を取得しました。在学中は海外インターンシップを運営するサークルに所属し、受入事業先を探す中で研修プログラムの開発に興味を持ちました。卒業後は、教師ではなく企業の教育CSRプログラムのコンサル事業を行う会社に就職しました。入社後は、企業担当と学校の間立ち、円滑な授業を運営できるようなサポートや、企業と学校、地域をつなぐコーディネート業務を担当していました。

特に印象に残っている出来事は、岩手県大船渡市の復興教育支援プログラムを担当したことです。これは、震災の影響で職場体験ができなくなってしまった中学生を対象に、企業を1か所に集め、生徒が各ブースで企業講師の方々にインタビューをするという企画でした。生徒のために企業や町の人々、保護者やマスコミが一丸となる姿を見て、児童・生徒が社会の一員であることを再認識し、学校こそが地域を変える力になるのではないかという教育の可能性を感じました。そして今度は、学校の中から同様のことができないだろうかと考えていた際に、邑南町矢上高校魅力化コーディネーターの求人を見つけました。



### 小林 圭介

島根県立矢上高等学校  
高校魅力化コーディネーター

#### プロフィール

広島県出身、同志社大学大学院卒、公教育のコンサルティング会社にて教育系イベントなどを担当。2016年に島根県邑南町にてインターン。矢上高校魅力化コーディネーターとして従事。現在は、一般社団法人地域商社ビレッジブライド邑南の職員として、生徒募集やカリキュラム開発など、高校魅力化全般に関わっている。

### 明日も行きたくなる学校へ

#教材づくり #仕組みづくり

仕事内容は多岐に渡ります。私は、生徒募集や探究授業の教材作成、キャリア教育の推進やコンソーシアムの運営等に取り組んでいます。立場の変化はありましたが、着任から5年が経った今でも教育への関わり方は変わりません。学校の先生や企業の方と作成したプログラムが学校教育に根付き、さらにその枠を超え、社内活用、地域還元されるような形を引き続き目指しています。

近年、嬉しい変化が2つありました。1つは、開発に携わった教材や仕組みが、自分達の手が離れてからも使われていることです。もう1つは、地域の熱い人たちが授業に来て生徒に伴走したり、出張授業をしてくださることです。皆さんと一緒に作り上げてきたものが、自分達の手を離れ、学校や地域に根付いた姿を目の当たりにしたときに、大きなやりがいを感じました。

### 先生を裏から支える人であり続けたい

教育業界は夢や希望を持ち、やる気に満ち溢れている人たちがばかりです。私は色々な理由で、教員ではなく、教員を支える「教材や仕組みづくり」の仕事に就きました。これからも夢や希望に溢れる先生たちを裏から支える人であり続けたいと考えています。また、矢上高校はもちろんですが、他の学校や地域、業界とも関わることで「教育の世界は、おもしろい!」と感じてもらえるように、試行錯誤をしていきたいと思っています。当座の目標は、ゲームの性質を取り入れたオリジナルな探究学習の教材を完成させることです。そして、先生方が夢や希望を持ち続け、やりたい教育を実現できるよう励んでいきたいと思っています。



職員室で家庭科の教材を作っている様子

島根県鹿足郡津和野町／津和野高等学校

高校 地域

協働体制

コーディネーター機能

# 子どもの可能性を広げる

## 編集者から教育の道へ

#エディター #子どもとの関わり

昔から服が好きで、ファッション雑誌をよく読んでいたことをきっかけに「私もこういうファッションページを作りたい!」「一流の元で働いてみたい!」と考えていました。大学3~4年次には、出版社やWebメディアでインターンシップに参加。プロに近い現場で様々な経験を積む中、やはり私は編集者として人に何かを訴えかけるような表現がしたいと強く思うようになりました。その後は知人の紹介でキッズファッション&ライフスタイル誌を発行している出版社に大学卒業前からアルバイトとして働き始めました。

当時、担当していた主な仕事の1つに、撮影現場に来るキッズモデルのキャスティングやケアを行うというものがありませんでした。その際、自由奔放な子どもたちとどのように接すればよいか、どうすれば最高のコンディションでカメラの前に立てるかをずっと試行錯誤していました。繰り返していく内に「大人の関わり方次第で、子どもたちの中にある可能性はいくらでも花開くのではないかと実感を持つようになりました。そうした関わり方を撮影という短い時間ではなく、もう少し長いスパンで探究していきたいと考え、教育の道を志しました。



玉木 愛実

一般財団法人つわの学びみらい  
島根県立津和野高等学校  
高校魅力化コーディネーター

## 伴走するということ

#学び合い #成長

教育について調べていく中で津和野町の取り組みに出会いました。着任後は、町営英語塾HAN-KOH（※近隣2つの中学校と1つの高校から生徒が通う公営塾）にて中学生を担当し、学習がしやすい環境づくりを進めました。その他にも、高校の探究学習やマイプロジェクトの伴走、日原エリアのHAN-KOHの立ち上げ、中学校で英語の授業支援を務めていました。3年間の任期満了後は、町に残ることを選択しました。そして今度は、より高校生と接することができるコーディネーターとして活動することになりました。中学生の頃から見ていた生徒とも、継続的に関わっていることをとても嬉しく思います。

やりがいは、やはり伴走です。一緒に悩んで考えたり、問いを投げかけたり、生徒の成長の過程を間近で見れたりすると喜びを感じます。生徒と話していると、自分も元気をもらえますし、新たな発見から学びが得られたりもします。また生徒は自分自身のことを深く知ることによって今後の進路に繋がることも多く、このような光景を目にするとやりがいのある仕事に携われていると改めて感じます。

## 伴走者の輪を広げたい

2021年には（一社）津和野まちとぶんか創造センターを設立し、子どもたちと地域の方々が学校外で交流できる場所の運営も行っています。こうした場をきっかけに、普段あまり接することのない大人と子どもが出会い、交流することで、お互いに刺激を与え合う環境を作りたいです。こうしたきっかけから、地域の大人が高校生の伴走者になる等、伴走の輪が広がり、そこから得られる喜びを感じられる人が増えると嬉しいです。今後も、伴走者のあり方を自分の中でしっかりと言葉に落としていきたいです。そして、子どもたちが困っているときにサポートができるよう、より学びを深めていきたいと思えます。

### プロフィール

東京都出身。編集者として雑誌や広告等の制作を行う。2017年に津和野へ移住し、町営英語塾HAN-KOH中等部で勤務の後、高校魅力化コーディネーターへ。2021年（一社）津和野まちとぶんか創造センターを設立。学校や地域の学びと創造を支える環境作りを目指し活動中。



地域に設けた拠点に、高校生が休日に集まっている様子。



島根県隠岐郡海士町／隠岐島前高等学校

主に担当するコーディネート機能

高校

地域

協働体制

## 先生に一番近い立場で

### 新卒で青年海外協力隊に

#高校教員 #キャリアデザイン

学生時代はずっと球技に打ち込んでいました。野球やソフトボール、ハンドボールなどを経験する中、どうすればもっと上手になれるのかを考えながら取り組むことが好きでした。そうした分野の研究をやりたい、高校生活が楽しかった経験から高校の体育教員になるのもいいなと思い、スポーツ科学が学べ、教員免許が取得できる大学に進学しました。その後も変わらず教員志望でしたが、心のどこかで「先生になる前に充実した社会経験を積みたい」と考えていました。そんな大学2年生のある日、同じ学部学科の卒業生で青年海外協力隊経験者の話を聞く授業がありました。この日を境に、現実的な選択肢の1つとして意識をするようになり、卒業後は青年海外協力隊というキャリアを歩むことになりました。

着任後はウガンダに配属され、中高6学年1,200人規模の女子校で体育指導やハンドボール部の顧問をしていました。現地の学校で特徴的だったのは、全寮制だったことです。生徒たちが助け合い、生活をしている姿を見て、自立していく仕組みとしての寮に価値を感じ、次第にこちらにも興味が湧いてきました。



### 新立 みずき

島根県立隠岐島前高等学校  
高校魅力化コーディネーター

#### プロフィール

奈良県広陵町出身。大学卒業後、JICA海外協力隊の体育隊員としてアフリカ・ウガンダ共和国で活動。2016年、帰国後すぐに海士町へ移住し、公設塾隠岐国学習センタースタッフとして島前教育魅力化プロジェクトに参画。その後、2020年より高校魅力化コーディネーターに着任。



ウガンダ時代に担当した最後の授業。2年間をともにした生徒たちと。

### 高校魅力化プロジェクトとの出会い

#新たな立場 #タイミング

2年1か月の任期を終えて帰国した後も、高校生と関わりたいという気持ちは変わらなかったため、高校生と寮教育をキーワードに次の働き先を探していました。そんな中、高校魅力化プロジェクトの取り組みに出会いました。全国から生徒を集めている多様性の観点と、寮生活の中で行っている人材育成の観点に共感することも多く、興味を持ちました。教員になる前に先生以外の関わり方を見てみたいというのも理由の1つでした。そして、募集と申込のタイミングが重なったこと、離島に住んでみたいという思いから島前高校に関わることになりました。

移住してから3年半は、公営塾の隠岐国学習センターで働き、主に高校3年生の学習指導や進路相談を担当していました。現在はコーディネーターになり、探究授業のコーディネートや島内外の生徒募集、課外プログラムであるグローバル探究などを担当しています。活動の中で意識していることは、自分の考えを押し付けないことです。生徒のみならず地域の協力者に対してもこちらで何かを既定するのではなく、コミュニケーションを通して出てきたその人らしさを大切にしています。

### 学校の先生だからできることに取り組みたい

魅力化のスタッフを離れるとしたら、いよいよ学校の先生になりたいと考えています。海外での体育隊員、公営塾スタッフ、コーディネーターと徐々に学校の中が見えるにつれて、学生時代に見ていた学校像から色々と変化していることにも気がつきました。良くなっている部分もありますが、まだまだ変えられることや工夫できることも探せばたくさんあると思っています。新卒のキャリアは悩みましたが、今振り返るといい選択だったと感じています。今度は学校の先生になり、色々な視点を持ち、先生だからこそできることを学校の内側から仕掛けられるといいなと思っています。

島根県大田市／瀬摩高等学校

主に担当するコーディネート機能

高校

地域

協働体制

## 教育を作るお手伝い

### 自分軸とつながりを大切に

#転職 #課題意識

大学時代から教育に興味を持ち、教職の多忙化が社会問題となっていたことに対して、何かをしたいという想いを抱いていました。漠然と「学校教育には、教師以外の第三者が必要だ」と考えていましたが、それが何なのかは分からず、まずは民間企業で教育に携わろうと思い就職しました。しかし思うようにはいかず、わずか3カ月で退職しました。その後は、友人の紹介で個別指導の学習塾、小中学校で包括支援員の仕事に就き、流れに身を任せながらも様々な経験をさせていただきました。

都会の生活も楽しくはありましたが、徐々に教育のあり方や住環境に疑問を持つようになりました。ちょうど地方移住を考え始めていたとき、友人が津和野町でコーディネーターとして働いていることを知り興味を持ちました。実際に話を聞くと「こんな仕事があったらいいな」と考えていたものに近く、やってみたいと思うようになり、転職・移住を決めました。

4年半の活動を通じて「ビジネスを軸に地域に関わりたい」という思いが強くなったため、当職は退任しています。現在は江津市のSUKIMONO株式会社で、総務や経理等のバックオフィス業務や営業、イベント企画、宿泊事業など、幅広い仕事を担当しています。



### 岡田 真理子

元 島根県立瀬摩高等学校  
高校魅力化コーディネーター  
SUKIMONO株式会社

#### プロフィール

東京都出身。大学は京都で4年間過ごし、教育に興味を持ち始め、NPO活動にも参加。都会の生活に違和感を覚え、地方移住を検討していたところ、SNSにて、友人がコーディネーターの仕事をしていることを知り、一気に島根の虜になる。コーディネーターを務め、2021年4月より江津市のSUKIMONO株式会社に転職。



同僚とお祭りに出店したときの様子。  
教育現場を離れた今も関係性が続いている。

### 教育を変えよう！と奮闘した日々

#やりがい #地域との関わり

コーディネーターとしての業務は年度で変わることがありましたが、生徒が地域企業様や仕事と出会い進路を考える「進路デー」という企画や、探究授業、情報発信を担当していました。着任当初は右も左もわからない状態で悩むことも多々ありました。そんな中、手助けをしてくださる先生方や忙しい中でも時間をとって来てくださる地域の皆さんの愛を感じる場面に出会い、徐々に自分の役割や存在意義を肯定できるようになっていきました。

瀬摩高校がある大田市は、暮らしやすいちょうどいいサイズだと思えます。恵まれていたことは、近い世代で地域を盛り上げようとしている方に出会えたことです。何かあったときに手を差し伸べてくれたり、活動を応援してくださる方もたくさんいました。何気ない地域とのつながりが仕事と紐づくことも多かったように思います。多様な人と関わることで自分がどういう人間であるかを知れたことは、自分が成長する上でとても大切なことでした。

### これからコーディネーターを目指す方へ

コーディネーターの役割と業務は様々で、求められることも現場によって異なりますが、なる資格は誰にでもあります。長所を活かすことはもちろん、自分の人生を軸に考えることも大切です。私は教育に携わり、地域に触れることで、地域に関わる仕事の楽しさを知りました。人生はずっと成長期であり、私はこれからも自分にとっての「楽しさ」を忘れず色々なことに挑戦していきたいと思います。皆さんもぜひチャレンジすることを恐れずに、挑戦してみてください。